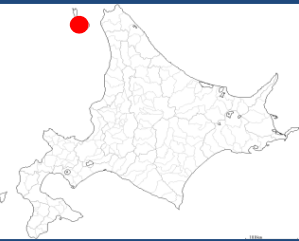


# 利尻地区地域水産業再生委員会

- 島内の代表的な水産物であるウニや昆布を「見る・触れる・学ぶ・食べる」ことができる観光から食までが一体となった体験型メニューを提供。
- 離島ならではの水産資源、観光資源のブランド力を最大限に活かした独自の水産観光業の確立を推進。

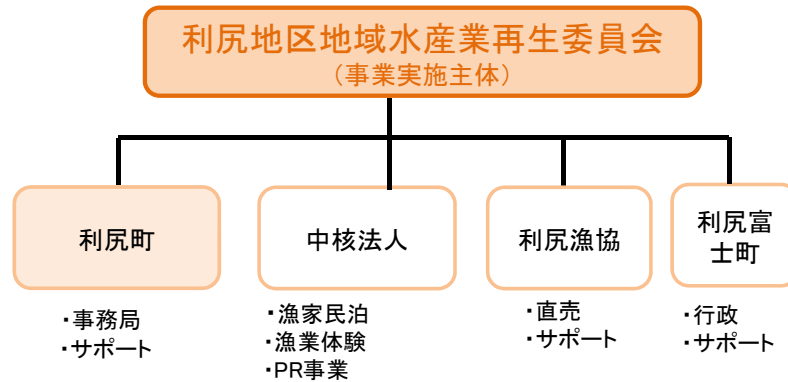
北海道利尻郡利尻町



【採択年度】  
平成29年度

【事業実施期間】  
平成29～30年度

## 【実施体制】

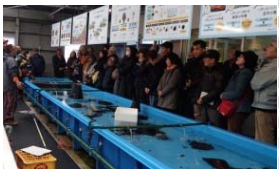


## 【取組内容】

- 【地域内合意形成及び事業実施関係者の意識造成】
  - ・当交付金を活用し、専門的人材による講義やワークショップ等を実施。当事業に「漁業者が関わる」ことの重要性や利尻島の目背す水産観光業の認識及び水産物の販促、ブルーツーリズムに関する意識の造成を図ることができた。
- 【漁業者による新規団体の設立】
  - ・漁業者による水産業PR団体を新たに設立。30年度に法人化し、農泊(渚泊)のPR及び六次産業化を実施。
- 【新規体験プログラムの創出】
  - ・29～30年度は「うみのきょうしつ(コンブのはなし)」として、現役コンブ漁師による漁業講義及びコンブの加工体験を実施。また、補助事業実施後もウニ種苗生産センターガイドなどを考案・実施している。どちらも現役漁師が講師となることで、よりリアルな体験をコンセプトとして提供している。
- 【補助事業実施後の波及効果】
  - ・補助事業実施後の活動は中核法人が中心となり実施。町や漁協と連携した漁業担い手に関する事業やPR事業といった公的事業を実施している。また、観光協会とも連携を図り、町の施設である「ウニ種苗生産センター」にて観光客向けに現役漁師がウニの説明を行うなど積極的に活動しており、令和元年度は初の本格運営ながら4月～9月までの約半年間で延べ41回、計1,252名の方々が訪れた実績がある。

## 【特徴的な取組】

- 地域の枠を超えた広域的な取組
  - ・利尻島は道内離島では珍しい1島2町で構成されているが、漁協は本所1箇所、支所3箇所と島内全域にあり、全島的な取組を実施することが非常に困難であったが、本事業は地域内合意形成を時間をかけ図ることにより、全島的な取組とすることができた。
- 「利尻島における水産業」を最大限に発揮する取組
  - ・利尻島の基幹産業は水産業であるが、その強みを最大限に発揮する取組を実施。漁業者の注目度を上げることにより、「この漁師に体験を覚えてもらいたい」「この漁師の獲った水産物を食べたい」「この漁師の家に泊まりたい」という方向に仕向けるためのプロモーション等を実施。



現役漁師によるウニセンターガイドの様子

## インバウンド対応状況 (青：対応)

Wi-Fi	洋式トイレ	キャッシュレス	外国語HP	外国語案内表示	外国語ネット予約